

令和2年10月12日

各部局等の長 殿

高浜市長 吉岡 初浩

令和3年度（2021年度）予算編成について

第1 予算編成のスタートにあたって

令和元年12月、中華人民共和国武漢市において確認された新型コロナウイルス感染症は、3か月あまりで全世界へと感染が拡大し、我が国においても、国内の感染者数が増加の一途をたどるとともに、今年4月には政府から緊急事態宣言が発出されるまでに至った。

この事態に対応するため、本市では、市内事業者の資金繰り支援のための補助金や休業要請に応じた中小企業者等に対する協力金の交付をはじめ、経済的な影響を受け、困窮する市民に向けた給付金の支給やICTの活用により、子どもたちの学びを保障できる環境整備に向けた予算措置などにも取り組んできたところである。

今後、この感染症収束後の社会は、ウイルスが蔓延する以前とは様相が異なる、新たな社会へと不可逆的な変化を遂げるとともに、デジタル化、リモート化へと移行する活動が定着することで、社会のあらゆる場面において変革がもたらされることが想定される。このため、状況の変化を冷静に捉え、これまでの既成概念・前例主義に囚われることなく、「新たな日常」などの社会変容を見据えた取組みを進めていく必要がある。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の当初予算に対して、市税の大幅な減収を見込んでおり、いまだかつてない極めて厳しい予算編成となる。加えて、その影響は、当面の間、続くことも想定される。こうした事態に、決してひるむことなく真正面から立ち向かい、たとえ、アクションプランであったとしても、長期的な視点に立ち、真に必要なものに重点化していかなければならない。

何もせずにコロナ禍を乗り越えることは難しい。職員一人ひとりが、いまだかつてない厳しい財政状況に置かれていることを十分に認識したうえで、知恵や経験、アイデアなど持てる力を最大限に発揮し、歳入・歳出両面からの徹底した見直し及び経常的経費の削減に果敢にチャレンジしていくことを強く期待する。

第2 予算編成の基本的な考え方

令和3年度の予算編成では、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化を見据え、コロナ禍における限られた経営資源をより一層効果的・効率的に活用するとともに、感染症収束後の「新たな日常」などの社会変容に対応していくため、「**新たな日常へのチャレンジ予算**」とし、次の考え方に基づいて予算編成を進めるものとする。

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響への対応

未だ収束の見通しが立たない新型コロナウイルス感染症の影響への対応は、市民の安心安全を最優先に、今年度に引き続き、市民生活や市内経済に及ぼす影響を的確に把握し、タイムリーに対応すること。

(2) 感染症収束後を見据えた徹底した見直しと経常的経費の削減

限られた経営資源の中で、効果的・効率的な取り組みが実施できるように、歳入確保に挑むとともに、「新しい生活様式」を踏まえた事業手法の多様化など事業の見直しに徹底して取り組み、財源の確保を図ること。

また、経常的経費についても、その実態を的確に把握し、一般財源ベースで削減に向けた取り組みを行うこと。

(3) 重点取組事業への財源配分

新型コロナウイルス感染症の影響に対する事業に加え、サマーレビューの実施等を踏まえ、第6次高浜市総合計画における本市が目指す将来都市像の実現に貢献する事業を「重点取組事業」として予算を優先的に配分する。

第3 重点取組事業

令和3年度の予算編成における重点取組事業は、以下の4事業と位置づける。

1. 新型コロナウイルス感染症の影響に対する事業
2. ICTを活用した行政サービスの推進につながる事業
3. 公共施設総合管理計画の推進につながる事業
4. 安心な子育て環境につながる事業